

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

感激！エンターテインメント・プレイスin西天下茶屋

～駄菓子と、地ソースと、大衆演劇「梅南座」観劇と～



かつては綿業、鐵工、造船関連の製造工場が軒を並べて、大いに賑わったという西天下茶屋界隈。いまは工場群も少なくなりましたが、昔ながらの駄菓子工場や、コナモンに欠かせないソース工場、庶民の娯楽の殿堂だった大衆演劇場などが残っています。昔懐かしい、大阪の下町文化を満喫しましょう！

①西天下茶屋駅
南海高野(汐見橋)線の駅。大正4年(1915)開業。昭和30年～40年頃までは、沿線沿いにあった工場の勤務者で、1日の乗降者数が4千人ほどありましたが、平成19年(2007)調査では、1日の乗降者人数は約350名まで減少しています。

②敷津松之宮西成社
浪速区にある敷津松之宮神社の御旅所です。同神社の記録によれば3世紀に、神功皇后が武内宿禰を従えて、敷津浜を航行中、松の木3本を植えて航行の安全を祈願したのが起源といわれています。はじめは松本の宮と呼ばれていましたが、明治頃には八坂神社と呼ばれるようになりました。

③株式会社ハシモト
日本で唯一の型抜き製造メーカーで、昭和27年(1952)に当地に拠点を構えました。東京で流行りつつあった「かたぬき」を独自に研究開発、商品化に成功して、たちまち子供たちの人気を集めました。平成9年(1997)には、大人も楽しめる型抜き「ザ・かたぬき」を開発、こちらもヒット商品となっています。

株式会社池下商店(ヒシ梅ソース)
大正12年(1923)創業。大正15年(1926)にウスターソース、昭和23年(1948)に「タマリソース」(とんかつソース)を発売。大阪で一銭焼きやたこ焼きの屋台などが登場したさいに、酒飯店を通じて広がっていき、工場は昭和30年代に建設したものです。ラベルはすべて手張りで、手作業で製造しています。製造量は年間180キロリットルで、2007年には、日経新聞のおすすめソースランキングで1位を獲得、知名度は全国区へと広がりました。



⑤サンヨー製菓株式会社 (モロッコヨーグル)
昭和21年(1946)、菓子製造開始。昭和34年(1959)に池田製菓として法人設立。フィンガーチョコやウィスキーボンボン(昭和35年・1960年)を開発してヒット。しかし模倣品の登場や、夏場の製造・販売が困難であったので、それらの課題を解決するために昭和36年(1961)「モロッコヨーグル」を開発。平成10年(1998)には、普通サイズ11個分のジャンボサイズ「ジャンボヨーグル」を発売して話題となりました。第23回全国菓子大博覧会で財務大臣賞を受賞しています。

⑥梅南座
平成10年(1998)開設の大衆演劇場。席数100。昭和50年(1975)、鶴見橋にあった鶴見ランド(現在の鈴成座)で大衆演劇をしていたオーナーが、元々は鉄工所だった場所を購入・改装。1階は劇場、2階は出演劇団の宿泊所となっています。月初日から月末1日前まで、毎月1劇団が、1日2回公演(午後0時スタートと、午後5時30分スタート)を行っています。

大衆演劇について
全国各地にある大衆演劇専用公演の劇場や健康ランド、ホテルなどで、時代劇や、演歌や歌謡曲にあわせての舞踊ショーなどを行っています。勤善懲悪で大変分かりやすいストーリー構成で、舞台と客席も近いので、役者と観客が一体となって盛り上がります。日本全国では130以上の劇団が存在しているといわれ、何世代も続く老舗劇団もあれば、最近旗揚げ(創立)した20代～30代の若い座長の劇団など、多種多様な劇団が存在しています